

「ポストコロナの生き方」を読んで

作家の本田 健氏の新刊ですが、色々と示唆に富む内容でしたので要約します。

今から約100年前の1918年にスペイン風邪（インフルエンザ）が流行しました。第1波：1918年3月、第2波：同年秋、第3波：翌年春から夏にかけて流行し、世界で5億人が感染し、2~5千万人が死亡しています。

日本では第1波：1918年8月（感染者2,116万人、死亡者25万7千人）、第2波：1919年9月（感241万人、死12万8千人）、第3波：1920年9月（感22万人、死3,698人）でした。

その後1933年にインフルエンザウィルスが発見されていますが、抗ウィルス剤やワクチンなど有効な治療法がありませんでした。現代も当時と効果的な治療法が存在しない点で似ています。

1923年9月に関東大震災が起き、「震災手形」の発行過剰で金融不安が急速に広がり1927年日本で金融恐慌が起き、世界的には1929年に株価暴落のブラックマンデーが起きています。

歴史から学ぶことは、①早期対策の重要性②過去の成功事例を参考に③長期戦になることを覚悟することです。

感染症の専門家は「間違いなく、コロナの第2波はやってくる」と言っています。油断は禁物です。

これからも①コロナ感染の拡大の可能性②倒産件数の増加③失業件数の増加が起きてきます。

政府は何をすべきか、秋までにやったらいいと思うこと

- ① PCR検査、抗体検査を数100万人単位で行う
- ② クラスタ追跡選任システムの拡充
- ③ ICUを大幅増床、ホテルルームも確保
- ④ 支援金拡大による経済サポート、給与の90%、企業には経費の90%をサポート

- ⑤ 週休3日、テレワークを導入するところには補助金
- ⑥ 過去5年間の所得税、住民税を還付、あるいは無期限貸付

これから第2波到来までにすべきこと

- ① 未来のシナリオを自分なりに想定する
- ② お金の工面をする、巣ごもりのための食糧を買うお金が必要
- ③ 仕事をアフターコロナ仕様にする、3密を頭において需要がなくなった所から出る
- ④ 新しい生き方を模索する、会議もズームやスカイプで、出張や接待なども減る、飲食業も通販やテイクアウトに切り替え、広いお店も必要なくなる、子供の教育もオンライン、教えるのが天才的に上手く、面白い授業をする予備校の先生方が役に立つ
- ⑤ 住居を変える、都市から緑が多くて子育てに良い田舎に移る
- ⑥ 才能を見つけ、磨いてお金に換える
- ⑦ コミュニティーに参加する、趣味のサークル、企業勉強会など居心地が良く楽しい場所を選ぶことが幸せと安心感の基盤となる
- ⑧ 周りの人に助けをもらう、与える喜びというのも人間の本能である
- ⑨ 自分や家族がコロナに罹患した時の手順を考えておく、お金の管理、支払い、仕事の段取りなど
- ⑩ 古い時代の考え方を捨てる
- ⑪ 新しい人生のOSをインストールする、パーティーも100人規模の立食は難しい、6人以上の会議は4人だけリアルで、それ以外の数人はオンライン参加するようなスタイル本格的に第2波が来る可能性のある10月までに後4か月あります。油断せずに時間を有効に使うことと本田 健氏は述べています。

(たまなは)